

# 野菜畑作生産情報 第6号

平成29年9月20日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦は適期は種で越冬前の生育を確保しましょう！  
◎病虫害防除や、台風等大雨に備えて排水対策を徹底しましょう！

## 畑作物

### 1 大豆

#### (1) 生育状況

- ・ 生育は、稔実莢数が少なめとなっており、平年並から下回っている。
- ・ べと病及びウコンノメイガ、ツメクサガなどの病虫害の発生が見られる。

表-1 大豆の生育状況 (9月11日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	分枝数 (本/株)	稔実莢数 (莢/本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年 (平年差:比)	5/25 (±0日)	6/4 (早1日)	7/29 (遅2日)	99.7 (97%)	60.1 (103%)	3.2 (103%)	37.9 (93%)
	平年	5/25	6/5	7/27	103.2	58.3	3.1	40.9
	前年	5/25	6/1	7/28	111.4	62.3	3.1	41.8
野菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年差:比)	5/16 (±0日)	5/23 (早3日)	7/21 (早6日)	107.0 (99%)	60.3 (90%)	2.1 (70%)	19.8 (61%)
	平年	5/16	5/26	7/27	108.1	66.7	3.0	32.6
	前年	5/15	5/22	7/28	113.8	72.1	4.1	31.0
五所川原市 金木町	本年 (平年差:比)	6/15 (遅13日)	6/23 (遅12日)	8/2 (遅3日)	92.2 (94%)	-	-	32.3 (88%)
	平年	6/2	6/11	7/30	97.6	-	-	36.5
	前年	6/6	6/12	8/2	97.2	-	-	35.3
十和田市 切田	本年 (平年差:比)	6/6 (±0日)	6/17 (遅3日)	7/31 (早4日)	109.1 (112%)	-	-	32.6 (82%)
	平年	6/6	6/14	8/4	97.3	-	-	39.9
	前年	6/3	6/10	8/1	112.2	-	-	41.7

注) ①品種：おおすず。

②農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、五所川原市、十和田市は生育観測ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去12年、野菜研究所が過去9年、五所川原市が過去15年、十和田市が過去16年の平均値。

#### (2) 収穫等での留意点

- ・ 台風や大雨などでほ場に滞水しないよう、明きよなどによる排水対策を徹底する。
- ・ 汚粒の原因となる雑草や青立ち株は、収穫前に必ず抜き取る。
- ・ コンバイン収穫では、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時が適期である。適期収穫に向け、コンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- ・ 湿害等により生育差がみられる場合は別刈りするなど、ほ場の状況を見極めて収穫する。また、培土高のムラが大きいほ場や倒伏がみられるほ場では、土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

## 2 小 麦

- ・ 紅色雪腐病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。
- ・ 明きよや弾丸暗きよ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- ・ は種作業は9月25日頃までに終え、越冬前の生育量を確保する。

## 野 菜

### 1 ながいも

#### (1) 生育状況

- ・ 生育は、平年を下回っている。
- ・ 病虫害は、葉渋病、炭疽病、ナガイモコガの発生が見られる。

表－2 ながいもの生育状況（9月11日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 (1日早)	6/29 (±0日)	368.0 (93%)	509.2 (107%)	57.9 (90%)	841.9 (89%)	68.2 (110%)
	平年	5/26	6/29	394.9	476.7	64.6	946.4	61.9
	前年	5/25	6/26	406.1	613.9	67.5	1,114	65.6
五 戸 町	本年 (平年比)	5/ 8 (6日早)	6/ 8 (8日早)	— (—)	— (—)	79.1 (102%)	745 (76%)	48.1 (77%)
	平年	5/14	6/16	—	—	77.4	982	62.3
	前年	5/ 6	6/10	—	—	84.7	1,094	59.2
東 北 町 野田頭	本年 (平年比)	5/16 (±0日)	6/12 (2日遅)	— (—)	— (—)	59.5 (90%)	551.7 (72%)	54.8 (103%)
	平年	5/16	6/10	—	—	65.8	770.3	53.0
	前年	5/12	5/30	—	—	67.3	868.5	53.1

- 注) ①平年：野菜研は平成19～28年の10か年の平均値。  
五戸町は平成14～28年の15か年の平均値。  
東北町は平成18～28年の11か年の平均値。
- ②種子：野菜研は園試系6の2年子（90～110g）頂芽切除。  
五戸町は庄司系の2年子（120～150g）頂芽切除。  
東北町は庄司系の1年子（50～80g）頂芽付。
- ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm（3,472株/10a）。  
五戸町は畦幅120cm×株間22cm（3,788株/10a）。  
東北町は畦幅110cm×株間21cm（4,329株/10a）
- ④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

#### (2) 今後の留意点

- ・ 今後のいも肥大に重要な茎葉を確保するため、病虫害防除に努める。
- ・ 採種ほ場では、ウイルス病株の抜取りや、媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。
- ・ 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよなどによる排水対策を徹底する。
- ・ 植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

## 2 にんにく

- ・ 植付けは10月上旬までに行い、気象情報を参考に遅れないよう計画的に作業を進める。
- ・ ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- ・ 黒腐菌核病やチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウの防除のため、種子消毒は必ず実施する。
- ・ イモグサレセンチュウの被害は、強制乾燥終了後50日頃からりん片に現れ始めるので、発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認し、発生が懸念される場合は指導機関等の診断を受ける。また、被害種子は絶対に植付けしない。

## 3 秋冬だいこん

### (1) 生育状況

- ・ 生育は、平年を下回っている。
- ・ 病虫害の発生は見られない。

表－3 秋冬だいこんの生育状況（9月11日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)
東 北 町 滝沢平	本年 (平年比)	8/ 5 (3日遅)	28.8 ( 96%)	12.0 ( 89%)	27.0 ( 42%)
	平年	8/ 8	30.1	13.5	63.6
	前年	8/ 9	20.0	11.0	16.9

注) ①平 年：平成13年～28年の16か年の平均値。

②品 種：夏の翼。

③栽植様式：畦幅50cm×株間21cm、1条植え（9,524株/10a）。

### (2) 今後の留意点

- ・ 白さび病（わか症）、キスジノミハムシ、アブラムシ類、コナガなどの発生に注意し、早期に防除する。
- ・ 台風や大雨に備え、明きよなどによる排水対策を徹底する。

## 4 秋にんじん

### (1) 生育状況

- ・ 生育は、平年を上回っている。
- ・ 病虫害の発生は見られない。

表－4 秋にんじんの生育状況（9月11日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 長 (cm)	根 径 (mm)	根 重 (g)
平 川 市 大木平	本年 (平年比)	6/19 (2日遅)	61.8 (123%)	8.3 (108%)	15.7 (105%)	45.1 (128%)	137.7 (182%)
	平年	6/20	50.2	7.7	14.9	35.1	75.7
	前年	6/22	55.1	7.2	14.4	31.4	56.9

注) ①平 年：平成9年～28年の20か年の平均値。

②品 種：向陽2号。

## (2) 今後の留意点

- ・ 黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・ 葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。
- ・ 台風や大雨に備え、明きょなどによる排水対策を徹底する。

## 5 ごぼう

### (1) 生育状況

- ・ 生育は、病害の発生等により平年を下回っているが、新葉が展開してきており、回復傾向である。
- ・ 病害虫は、黒斑細菌病などの発生が見られる。

表－5 ごぼうの生育状況（9月11日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 三 沢	本年 (平年比)	5/12 (14日遅)	76.0 ( 72%)	3.0 ( 86%)
	平年	4/28	105.9	3.5
	前年	4/24	94.9	3.8

注) ①平年：平成19～28年の10か年の平均値。  
②品種：柳川理想。

## (2) 今後の留意点

- ・ 黒斑細菌病などの防除に努める。
- ・ 台風や大雨に備え、明きょなどによる排水対策を徹底する。

## 6 夏秋トマト

### (1) 生育状況

- ・ 生育は、津軽地域では10～11段果房の収穫期で平年並、県南地域では7～8段果房の収穫期で遅れ気味となっている。
- ・ 全体的に小玉傾向で、出荷量は減少している。
- ・ 病害虫は、灰色かび病、葉かび病、コナジラミ類、タバコガ類などの発生が見られる。

表－6 トマトの生育状況（9月11日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	7 段花房		9 段花房		11段花房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 藻 川	本年 (平年比)	5/ 4 —	7/ 3 —	2.8 —	7/18 —	2.9 —	8/ 2 —	2.4 —
	平年(参考)	5/ 5	7/13	2.8	7/31	2.9	8/15	2.7
	前年(参考)	5/ 1	7/15	2.4	8/ 3	3.1	8/15	1.8
三戸町 斗 内	本年 (平年比)	5/11 (6日早)	7/17 (6日早)	2.0 ( 91%)	8/ 8 (4日早)	1.8 ( 90%)	8/29 (4日早)	—
	平年	5/17	7/23	2.2	8/12	2.0	9/ 2	1.3
	前年	5/22	8/ 1	2.3	8/20	2.3	9/10	0.9

注) ①設置場所：五所川原市は、本年から藻川に変更（前年まで金木）。

- ② 平年：五所川原市は参考値（五所川原市金木の平成16～28年までの13か年の平均）。  
三戸町は平成20年～28年の9か年の平均値。
- ③ 品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）（前年に同じ）。  
三戸町はりんか409（自根）（前年に同じ）。  
三戸町は平成20～27年の8か年の平均値

## （2）今後の留意点

- ・ かん水は、土壌の乾湿が極端に変化しないよう生育を見ながら実施する。ただし、9月下旬以降は、過湿、多窒素で裂果が増えるので、かん水を控え、追肥は中止する。
- ・ 最低気温が16℃以下になったら、夜間はハウスを閉めて保温し、果実肥大や着色を促進する。
- ・ 日中は、ハウスを閉めきると内部の湿度が高まり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、換気と薬剤散布を徹底する。さらに着色始めとなった果房の下葉を2枚残して摘葉し、通気を確保する。
- ・ コナジラミ類等の病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。

---

### ◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）

安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

---

### ◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、焦らず、急がず、慎重に！
  - 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
  - 3 機械点検時にはエンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
  - 4 高所作業では、周囲の状況を確認し、身体の安定を保とう！
- 

### ◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 ([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

---

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

---

---

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5078
直通	017-734-9481

---